

目的とねらい

二百数十年続いた幕府支配が終わり、西欧をモデルとした新しい国づくりが始まりました。迷いつつ制度設計が進められ、それに異論も出ました。それが成功した人も失敗した人も、時代の先を読んだ人物でした。時代の中でライバルと目された人たちをとりあげます。

会場

河原町学舎

追加募集人数

50名

受講料

10,000円

責任講師

原田 敬一（佛教大学名誉教授）

日程

全8回 第4金曜日
13:30～15:30

(日程等は一部変更になる場合があります)

①	大久保利通と木戸孝允 新しい国家の基礎を築いたリーダーの二人、連携しながらも次第にその路線に違いが現れ、対立していきました。意外に早く政治の場から退場した二人の政治構想を考えてみます。	4/22 (金)
②	板垣退助と大隈重信 戊辰戦争で土佐隊を率いて東北まで戦い抜き、新政府の重鎮となりましたが、権力闘争に敗れ、自由民権へと身を投じます。新政府の有力者だった大隈重信も、失脚後民権政を率いることとなります。二人の民権派の指導者は、日本をどこへ向かわせようとしていたのか。	5/27 (金)
③	伊藤博文と山縣有朋 新政府の最初の設計図は大久保利通がひいたが、それを受け継いだのは伊藤博文だった。伊藤はその設計図に何を加えて実力者になったのだろうか。ライバルは山縣有朋で、軍部を育て、軍拡を推進した。大日本帝国の両輪ともいえる二人。 会場：大講義室	6/17 変更 (金)
④	福沢諭吉と新島襄 啓蒙的指導者となった福沢諭吉は、慶應義塾という学校を活動の拠点にしていました。幕末に密航して渡米した新島襄は、教育に身をささげる決心をし、京都に学校をつくります。近代国家と教育を支える二人の違いはどこにあったのか。	7/22 (金)
⑤	岸田俊子と福田英子 1900年の治安警察法まで女性が政治に乗り出すのも、演説するのも自由だった。その先駆けが京都商人の娘である岸田俊子。彼女の演説は各地で評判となり、人を引き付けた。福田英子は俊子の演説を聞き、自由民権運動に身を投じます。	9/23 (金)
⑥	植木枝盛と中江兆民 フランス留学で西園寺公望と知り合い、帰国後自由民権運動の理論家となった兆民。慶應義塾の演説会で政治を学んだ植木枝盛も自由党の指導者の一人となります。二人は、自由民権運動の進む道をどのように考えていたのだろうか。	10/28 (金)
⑦	渋沢栄一と大原孫三郎 〈日本資本主義の父〉と言われた実業家の雄、渋沢栄一は、経営者の顔に社会事業家の顔も持っていた。地方都市の紡績業を牽引し、労働に科学を持ちこんだ大原は異色の経営者として活躍する。二人の共通点と相違点は何か。	11/25 (金)
⑧	与謝野晶子と平塚らいてふ 若き歌人として名をはせた晶子は、平塚らいてふとの母性保護論争など、社会に一言も二言も言わなければならないことは毅然と対した。人生観も実人生も全く異なる二人の来歴をたどってみます。	12/23 (金)